

# 農福連携の取組主体数について（令和4年度末）

- 平成31年4月、農福連携の全国的な機運醸成を図り、今後強力に推進するため、内閣官房長官を議長とした省庁横断の「農福連携等推進会議」を設置。令和元年6月には、同会議において、今後の取組の方向性を「農福連携等推進ビジョン」として決定。
- ビジョンでは、今後5年で、農福連携に取り組む主体を新たに3,000創出するとの目標を掲げた。  
（\*注：令和元年度末から、令和6年度末にかけて）
- 農林水産省は、この目標の達成に向けて、農福連携の取組主体数の現状を把握するために、関係機関と連携して調査を実施し、令和4年度末時点において把握した結果を取りまとめた。

令和4年度末時点において把握した農福連携の取組主体数の内訳

（括弧内は前年度調査結果）

## ①農業経営体等による取組

農林水産省・都道府県・JA全中・JA全農調べ

取り組んでいる農業経営体等数（a）	3,000（2,672）
【参考】全国の農業経営体等数（b） （2023年農業構造動態調査から）	929,400
【参考】（a）／（b）	0.32%

令和4年度において取り組んでいた農業経営体・JA

## ②特例子会社による取組

農林水産政策研究所調べ

取り組んでいる特例子会社数（a）	51（50）
【参考】全国の特例子会社数（B） （令和4年6月1日時点）	579
【参考】（a）／（b）	8.81%

令和4年度において取り組んでいた特例子会社

## ③障害者就労施設（A型）による取組

厚生労働省・都道府県調べ

取り組んでいるA型事業所数（a）	641（544）
【参考】全国のA型事業所数（b）	4,010
【参考】（a）／（b）	15.99%

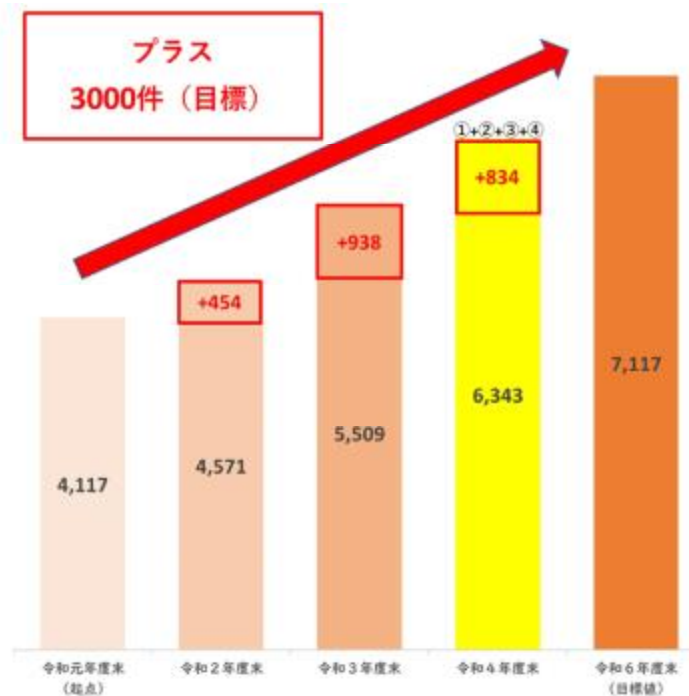
令和3年度において取り組んでいた障害者就労施設

## ④障害者就労施設（B型）による取組

厚生労働省・都道府県調べ

取り組んでいるB型事業所数（a）	2,651（2,243）
【参考】全国のB型事業所数（b）	14,393
【参考】（a）／（b）	18.42%

令和3年度において取り組んでいた障害者就労施設



45事業者が  
認証取得済み  
(令和5年4月)

# 障害者が生産行程に携わった食品のJAS(ノウフクJAS)

- 農業分野での障害者就労の支援、農業の担い手不足や障害者の就労先不足など農業・福祉における諸課題の解消につながる「農福連携(ノウフク)」の取組が推進される一方で、ノウフクの取組が広く認知されていない状況。
- 障害者が携わって生産した農林水産物及びこれらを原材料とした加工食品の生産方法及び表示の基準を規格化することにより、次の効果が期待。
  - ① 障害者が携わった食品の信頼性が高まり、人や社会・環境に配慮した消費行動(エシカル消費)を望む購買層に訴求することが可能に。
  - ② 「農福連携(ノウフク)」の普及を後押しすることで、農業・福祉双方の諸課題解決ツールに。

### 規格等の内容

- 農林水産物の主要な生産行程に障害者が携わっている
- 障害者が携わった生産行程の情報提供
- 加工食品において使用する原材料やその管理
- 包装・容器等への表示の方法及び内容

### ノウフク生鮮食品

例 障害者が除草、収穫に携わった場合(いちご)

回答イメージ: このいちごは除草と収穫の作業に障害者が携わりました。

作業記録: 定植 ○ 除草 ○ 収穫 ○ 調整 ○

農福連携 JAS いちご(〇〇県産) <問合せ先> Tel: XXX-XXXX

ノウフクいちご ノウフクとは、...

### ノウフク加工食品

原材料: SUGAR, 農福連携 JAS いちご

加工食品: ノウフク JAM

農福連携 JAS ノウフクいちご 使用

ノウフクとは、障害者が農林水産業における生産行程に携わる取組みの事です。

名称	いちごジャム
原材料名	いちご、砂糖
内容量	300g
賞味期限	...
保存方法	...
製造者	〇〇株式会社

# ノウフク・アワードについて

- 全国で農福連携に取り組む団体・企業や個人を募集し、農福連携の優れた取組をノウフク・アワードとして表彰。国民運動としての機運を高め、農福連携の全国的な展開につなげることを目的として開催。
- 令和2年度にノウフク・アワード2020を初開催し、「みんなで耕そう！」をスローガンに、「人を耕す」「地域を耕す」「未来を耕す」との観点から優れた取組を表彰。
- 令和3年度のノウフク・アワード2021からは、農福連携の新たな動きや広がりに着目し、「フレッシュ賞」、「チャレンジ賞」を新設。令和4年度のノウフク・アワード2022についても、前年度の枠組みに沿って開催。

## 取組概要

- ・応募対象:全国で農福連携に取り組んでいる団体等
- ・選定方法:「人を耕す」、「地域を耕す」、「未来を耕す」との観点から、優れた取組に対して以下の賞を授与  
「グランプリ」、「準グランプリ」、「優秀賞」  
「フレッシュ賞」(取組開始5年以内の優れた取組)  
「チャレンジ賞」(「農」や「福」の広がりに向けた取組)
- ・審査員: 中嶋 康博 〓 東京大学大学院農学生命科学研究科教授(審査員長)  
濱田 健司 〓 東海大学文理総合学部教授  
松森 果林 〓 ユニバーサルデザインアドバイザー  
村木 厚子 〓 津田塾大学総合政策学部客員教授  
米田 雅子 〓 東京工業大学環境・社会理工学院特任教授
- ・主催:農福連携等応援コンソーシアム(事務局:農林水産省)



農福連携の優れた取組の横展開へ

# 「ノウフク・アワード2022」表彰23団体

## No. 1 北海道 新得町

### 農事組合法人 共働学舎新得農場

- ・ ソーシャルファームの草分け的存在
- ・ 畜産、野菜を主として、チーズ等の加工や6次化にも取り組みレストランを経営
- ・ チーズでは国際的な賞も受賞

グランプリ

## No. 2 山形県 鶴岡市

### 社会福祉法人 月山福祉会

- ・ 畜産（短角牛）や野菜・果樹に取り組み認定農業者を取得
- ・ 高工賃の実現や地域におけるチャリティイベント等の多角的な活動により地域の中心的存在となる

準グランプリ  
(未来を耕す)

## No. 7 三重県 鈴鹿市

### 社会福祉法人朋友 就労継続支援B型事業所Cotti菜

- ・ カフェ運営や総菜製造等、活動の幅を広げた取組により、高い工賃を実現
- ・ 理事が設立メンバーとして、一般社団法人三重県障がい者就労促進協議会を設立し、県内の普及に貢献している

準グランプリ  
(人を耕す)

## No. 9 和歌山県 有田川町

### 社会福祉法人有田つくし福祉会 早月農園

- ・ 地域の中核的な取組へと年月をかけて成長、農地も5haと広く温習みかんを中心とした柑橘類を栽培
- ・ 法人内で6次産業化にも取り組み、高工賃を実現、一般就労移行者も輩出している

優秀賞

## No. 10 山口県 阿武町

### 社会福祉法人E.G.F のんきな農場阿武事業所

- ・ 地域の農作業支援を積極的に行うとともに、自ら農業や6次産業化にも取り組み、県平均を上回る工賃を確保し、地域農業を支える存在となっている

優秀賞

## No. 11 長崎県 長崎市

### 社会福祉法人出島福祉村

- ・ びわ茶等の加工品やカフェ運営など幅広い活動を通じ、障害者が一生安心して暮らせる住環境の整備に取り組んでいる
- ・ 認定農業者となり、社会福祉法人としては日本で初めて6次産業化事業計画の認定を受ける

優秀賞

## No. 4 群馬県 前橋市

### 社会福祉法人ゆずりは会 菜の花

- ・ 約14haの農地で障害者23名が野菜栽培に従事
- ・ 地元農業に対する出荷割合も高く、地域農業の中核として、県平均を大きく上回る高工賃を実現
- ・ 一般就労移行者も輩出

グランプリ

## No. 3 栃木県 小山市

### 社会福祉法人パステル 多機能型事業所CSWおとめ

- ・ 地域の桑生産を守る担い手、桑の葉や桑の実製品で6次化にも取り組み、高工賃を実現
- ・ 来年度からは、地域の「稚蚕飼育事業」をJAから継承

準グランプリ  
(地域を耕す)

## No. 5 静岡県 静岡市

### 株式会社サンファーマーズ

- ・ 高糖度トマトのハウス栽培により障害者3名を従業員と同じ賃金で雇用し、一人一人が活躍できる環境を整備
- ・ 地域の幼稚園と食育活動を連携して行っている

優秀賞

## No. 6 石川県 内灘町

### 株式会社笠間農園

- ・ 近隣の多数の事業所と連携して栽培面積を数倍に拡大し、地域農業への貢献や工賃の向上を実現
- ・ 県の農福連携促進アドバイザーとして県内のマッチングにも貢献

優秀賞

## No. 8 岐阜県 関市

### 株式会社DAI就労継続支援A・B型それいゆ

- ・ 行政、JAと連携し、農地の受け手となって農業に取り組み、地域特産品の円空里芋の栽培拡大、加工の受託等により県平均を上回る工賃を実現
- ・ 企業からの加工委託も請け負っている

優秀賞



## フレッシュ賞

- No.12 (有)照沼農園（茨城県水戸市）
- No.13 (福)土穂会 障害福祉サービス事業所ピア宮敷第1工房（千葉県いすみ市）
- No.14 金沢市農業協同組合（石川県金沢市）
- No.15 (株)ココトモファーム（愛知県犬山市）
- No.16 三休 - SANKYU -（京都府京田辺市）
- No.17 (株)和光ワールド（愛媛県伊予市）

## チャレンジ賞

- No.18 特定非営利活動法人サトニクラス 就労継続支援A型サトニクラス酵母（北海道月形町）
- No.19 三陸ラボラトリ（株）（岩手県大船渡市）
- No.20 一般社団法人イシノマキ・ファーム（宮城県石巻市）
- No.21 (株)八天堂ファーム（広島県三原市）
- No.22 大隅半島ノウフクコンソーシアム（鹿児島県南大隅町）
- No.23 (福)みやこ福祉会（沖縄県宮古島市）

# 社会福祉法人 E.G.F のんきな農場阿武事業所

(山口県阿武町)



単なる作業受託ではなく、事業所として原材料生産を行うことを重視し、生産者となることで農業の持続化が可能となるとの考えのもと農福連携を実践しています。

## 概要

- 知的・精神・発達等の障害者で冷凍ボイルカット野菜を製造し、主に山口県学校給食会へ販売することで、県内ほぼ全ての小・中学校で使用されています。
- 障害者が育てた野菜(特に規格外野菜)を使用した商品を提供していることが話題となり、食育にもつながり学校の栄養士から再発注を受けています。
- 協力農家は規格外野菜がお金になり、かつハウス内の清掃を障害者が行うなど、多くの作業に従事してくれることから作業行程が楽になり、作付け回数が増えるというWin-Winの関係を構築しています。
- 田植え時(130畝)の、ハウスからの苗出し・田植機への受け渡し・苗箱洗浄等の作業への役務提供や、一部草刈りの受託を行っています。
- 共同での商品開発や、障害者が農事組合法人の生産した稲のはぎ掛け作業を行い付加価値の高い天日干し米を販売しています。

## 成果

### 人を耕す

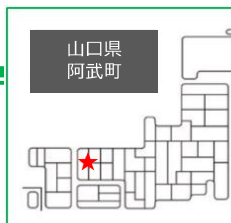
平均工賃は取組前の約2倍である約16,000円/月(2021年)となり、県平均を上回っているほか、毎日の活動により、地域に活気が生まれ、障害福祉に対する理解が生まれています。

### 地域を耕す

規格外野菜の仕入れにより、農家の所得向上に貢献するとともに、130畝の田植え作業への役務提供を行うなど、地域農業を支える存在となっています。

### 未来を耕す

学校給食に障害者が育てた野菜を販売することにより、県産野菜使用率の向上や食育、地産地消の推進に貢献しています。



○ 障害者でも高品質なものを製造でき、農業の労働力になりえる。単なる作業受託ではなく、事業所として原材料生産を行うことを重視し、生産者となることで農業の持続化が可能となると考え実践。

### 基本情報

- 所在地：山口県阿武町
- 団体名：社会福祉法人 E.G.F  
のんきな農場阿武事業所
- 選定表彰：
  - ・平成27年 ディスカバー農山漁村の宝 第2回全国選定 プロデュース賞  
(主催：農林水産省)
  - ・平成29年 6次産業化優良事例表彰 奨励賞農福連携賞 (主催：6次産業化推進機構)
  - ・平成30年 地産地消活動優良活動表彰 優秀事例 (主催：共同通信社)
- 主力商品：冷凍ボイルカット野菜

### 取組の概要

- 山口県学校給食会との連携
  - ・知的・精神・発達などの障害者で冷凍ボイルカット野菜を製造。主に山口県学校給食会へ販売。県内ほぼ全ての小・中学校で使用されている。
  - ・製造過程で障害者が目視検品を行っており、異物混入はほぼない。
  - ・障害者が育てた野菜（特に規格外野菜）を使用した商品を提供していることが話題となり、食育にもつながり学校の栄養士からリピートオーダー。
  - ・協力農家は捨てていたものがお金になり、かつハウス内の清掃を障害者が行うなど、多くの作業に従事してくれることから作業工程が楽になり作付け回数が増えるというWin-Winの関係を構築。
- 農事組合法人福の里との連携
  - ・田植え時（130ha）の、ハウスからの苗出し・田植機への受け渡し・苗箱洗浄などの作業への役務提供。また、一部草刈りの受託。
  - ・共同での商品開発や、障害者が農事組合法人の生産した水稻の稲架掛け作業を行い付加価値の高い天日干し米の販売。

### 体制図



### 取組の成果

- 規格外野菜の仕入れにより、農家の所得向上・作業負荷の軽減に寄与。
- 学校給食用に販売を行うことにより、県産野菜使用率の向上や食育・地産地消の推進に寄与。
- 令和3年の平均工賃は取組前の約2倍（約16,000円）であり、県平均（15,000円）を上回る。
- 毎日活動することにより地域に活気が生まれるとともに、障害福祉に対する理解が生まれた。

所在地 ▶ 山口県阿武郡阿武町福田上1326

連絡先 ▶ TEL:08388-5-0050 E-mail:egf@Athena.ocn.ne.jp

ウェブサイト ▶ <http://e-g-f.jp/>

# 【取組のプロセス】

平成20年

6次産業化団体として農林水産省より認定

きっかけ

事業所として生産者となることで農業の持続化が可能となる。障害者が高品質な物を製造する。

平成22年

## NPO法人として社労継続B型事業所のんきな農場を開設

- 平成22年、社会福祉法人の認可を取得し、社会福祉法人E.G.F設立。
- 平成26年、6次産業化団体として認定される。



畦畔の草刈り作業

平成28年

6次産業化ネットワーク交付金事業の活用

## 6次産業化スタート

- 平成28年、のんきな農場阿武事業所（就労継続支援B型事業所）を開設。6次産業認定団体として、6次産業化・農福連携に取り組む。
- 6次産業化ネットワーク交付金事業が大幅減額になったが、事業の重要性和継続性から民間借入れを増額し、実施。



地元住民を招いての収穫体験

令和元年

全国で初めて社会福祉法人が6次産業認定団体となり、全国から視察が増加

## 地域の維持・発展に貢献

- 令和2年、認定農業者として認定される。
- 地域のほうれんそう農家からB級品の収穫依頼が激増。Win-Win関係性の構築。
- 農事組合法人福の里との連携強化 田植え・草刈りと切っても切れない関係性。



冷凍カット野菜洗浄作業

今後の展望

県会議員や県内外のJA等から地元でかかえる問題解決のため視察が急増

## 地域の活性化と障害者の就労・居場所作り・社会参加の更なる拡大

- 社会福祉法人E.G.Fの目指す農福連携とは、単なる農作業の請負ではなく、障害者が地域農業の継承者となること。
- 常に5年後・10年後の地域の状況を予見しながら日々活動を実施し、障害者の就労の場の拡大、居場所づくり、社会参加へ繋げていく。



冷凍カット野菜製作用業